

# 在宅でも働ける!「在宅実習プログラム」

特別支援学校に在籍する肢体不自由及び病弱生徒の中には、一般就労を望んでいるが、通勤の困難さ、介助が必要であること、居住地に勤務可能企業がない等の理由により選択できる進路が限られてしまう生徒が一定数います。県教育委員会では、こういった生徒の就労機会の拡大を図るため、令和3年度より ICT 機器を活用した在宅実習プログラムのモデル研究を開始しました。

## 在宅実習とは

企業と参加生徒の自宅等をつなぎ、オンラインで行う実習です。データ入力や画像編集等、企業が設定した業務を行います。報告や業務データの送付をWEB会議システム等を使用して、担当者やりとりします。

令和3年度は、下記県内の企業2社にご協力をいただき、3校で実施した在宅実習の取り組みを紹介します。

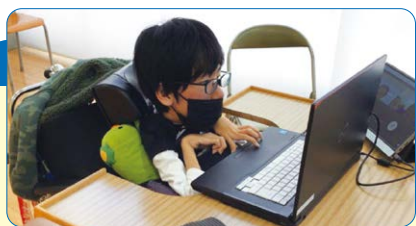
登録番号897

## イビデンオアシス株式会社

代表取締役社長 箕浦 隆行  
大垣市笠縫町100-1

### 在宅実習へ協力いただいた理由は(きっかけ)

・当社では、「職業訓練への自由なアクセス」を掲げており、交通手段がない方や家庭でのケアが必要で実習参加が難しい方へも幅広く実習機会を提供したいと考えていました。また、会社として「地域に働く場を提供する」という目標があり、教育委員会から在宅実習の話をいただき、趣旨に賛同したため、ぜひ協力したいと考えました。



### 在宅実習を行っての感想

パソコンを使った仕事に興味はありましたが、実際にどのような働き方があるか知らないことが多いため、在宅実習をやってみようと思いました。

実習の際には、休憩を適宜取り、体調に応じて自分のペースで仕事を進めることができました。パソコンを使った仕事は、思っていた以上に自分で取り組むことができ、自信につながりました。

### 在宅実習を行い会社としてよかったこと等

・WEB上で実習を行うことで、言葉での指示の難しさを再認識することができ、生徒の理解度に合わせて言葉をかみ砕いて説明することや、会社として統一した言葉を使うことの重要性を再確認できました。実習生徒向けの教材の見直しなど既存の教育プログラムについての幅広い改善にもつながっています。

・画面越しから「学ぼう」「少しでもスキルアップしよう」という思いが伝わってくるなど、参加生徒の一生懸命さに会社としても刺激を受けました。



登録番号932

## 株式会社ホームセンターバロー

代表取締役社長 和賀登 盛作  
多治見市大針町661-1

### 在宅実習へ協力いただいた理由は(きっかけ)

・実店舗においては、以前から障がい者雇用を推進していましたが、新規事業であるネットショップでも障がいのある方が働くことができないかと考えていました。教育委員会より在宅実習のご相談を受け、現場の意向も確認した上で、実施可能であると判断し協力を決めました。



### 在宅実習を行っての感想

作業の業務全てが、お客様に直結することなので、間違えないように文字や数字を入力することが大変でした。しかし、実際に自分が作ったものをインターネットの販売ページに載せていただき、とても嬉しかったです。今回の実習をきっかけに、改めて将来在宅での仕事にも挑戦したいと思いました。

### 在宅実習を行い会社としてよかったこと等

・障がいのある方が在宅で働くことへの可能性を感じることができました。特にネットショップでの業務ではセンスやアイデア次第で働けるといことが分かりました。

・参加生徒には、働いた結果が社会とつながっているということや、今回の実習を経験したことで、自分自身への可能性を感じてもらえると嬉しいです。



## 在宅実習にご協力いただける企業を募集しています

- ・特別支援教育課では、在宅実習にご協力いただける企業を随時募集しています。詳細は特別支援教育課にお問い合わせください。

## 岐阜県教育委員会特別支援教育課